



舞鶴市は2019年に「SDGs未来都市」、 「SDGsモデル事業」に選定されました！！

・SDGs未来都市とは？

国が、自治体によるSDGsの達成に向けた取組を公募し、優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として最大30程度選定するもので、舞鶴市は2019年にSDGs未来都市に選ばれました。

・SDGsモデル事業とは？

特に先導的な取組を行っている自治体を10程度選定されています。

舞鶴市の取組として

便利な田舎暮らし「ヒト、モノ、情報、あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”」がモデル事業として選ばれました。



「便利な田舎暮らし」など、2030年における舞鶴市のありたい姿を明確に示し、民間企業や教育機関との多様な連携やAI/ICT等の先進技術の積極的な導入により都市の持続可能性の維持・向上に取り組み提案が先駆的であると評価されたものと考えています。

舞鶴市のSDGs未来都市推進本部とは

29課58名からスタートした組織で、「経済産業」「地域共生」「環境・地域エネルギー」「防災・減災」「行政運営」の分野において、より具体的な事業を展開しています。

舞鶴市がモデル事業として選定された取組

便利な田舎暮らし「ヒト、モノ、情報、あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”」創生事業

モデル自治体7自治体のうちの1つに選定！！
舞鶴高専・KDDIとの連携

舞鶴市の現在抱える課題として、産業、防災、スマートシティに関する事項の3つをあげ、三者が連携しICTを駆使した実証実験を行い、課題解決に取り組んでいます。

【産業部門】●スマート農業 ●IoTセンサーをハウス内に設置し「万願寺甘とう」の成育に関係すると思われる「温度」「湿度」「日照」「土壌EC(電気伝導度)」「土壌温度」「土壌水分量」「土壌pH(酸性度)」を10分ごとに収集し、クラウド上へリアルタイムに蓄積します。

●スマート漁業 ●定置網にスマートブイ設置の実証実験。

定置網漁は、天候や海流などに自然環境に大きく左右されやすく、漁場に行きつて網を揚げてみないと漁獲状況が分からないのが課題ですが、海洋データの把握と漁獲量推定が把握できると期待されています。

【防災部門】高潮・豪雨浸水・土砂災害・積雪監視

近年、高潮や豪雨による浸水被害や土砂災害、積雪被害が多く発生していますが、市内各地のリアルタイムでの状況把握ができません、そのためそれぞれの現場に応じた対応(通行止め、除雪など)がすぐに行えないのが課題でありました。現場からのデータを把握し管理するとともに、状況に応じた適切な対応・作業の指示が期待できます。

京都電子計算との連携

【スマートシティ】「自治体向けA-1手書き文字認識サービス」京都電子計算株式会社が提供する「自治体向けA-1手書き文字認識サービス」を用いて、舞鶴市の業務の効率化を図り、市役所全体のクオリティを上げ、市民サービスの向上に寄与できるようにサービスの拡充に努めています。

*「自治体向けA-1手書き文字認識サービス」とは、高いセキュリティレベルを求められる地方公共団体でも利用できるような従来の環境下に加え、京都電子計算のサービスメニューにてセキュリティ機能や運用サポート機能を新たに搭載し、LGWN-ASPサービスとして提供を行うものです。

*LGWN-ASPとはLGWANという非常にセキュアなネットワークを介して、利用者である地方公共団体の職員に各種行政事務サービスを提供するものです。

J&J事業創造・ハッシュダイファクトリー・MIYACOとの連携
舞鶴市において、自らの想いを実現するための人生設計ができる場づくり、若者の多様な可能性(能力)を発揮できる場づくりを通じて地域活性化を図ることを目的とし、赤レンガパークに「コワーキングスペース」を設置し、「観光交流拠点」要素に加えて、参加する異職種間や舞鶴で活躍する若手経営者、学生との交流から、新たなビジネスモデルが生まれる交流拠点の場となっております。

赤レンガパーク3号棟2階にあるコワーキングヴィレッジまいづる



オムロンソーシアルソリューションズとの連携

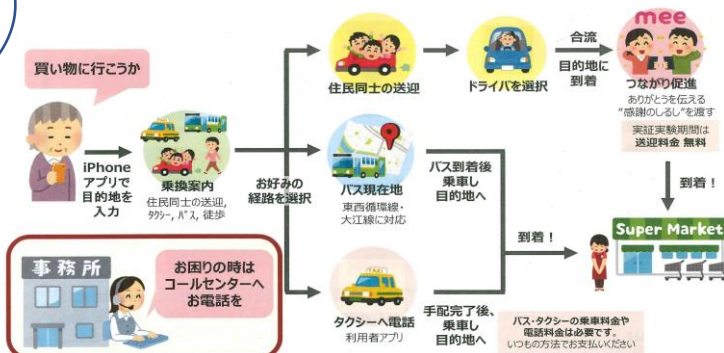
2019年から実証実験を開始

全国的に地方都市では、少子高齢化等に伴う人口減少により地方自治体の財政が悪化し、暮らしやすい街づくりが課題となっています。特に、住民の移動に関して、バス・タクシー等の不足が深刻化しており、公共移動サービスの維持は将来的に大きな課題となっています。

舞鶴市はオムロンソーシアルソリューションズが開発したMaasアプリ「meemo(ミーモ)」を使用し、舞鶴市民が自由に交通手段を組み合わせて目的地まで移動できるように実証実験を通して、「困っている人」と「助きたい人」をつなぐ「お互いさま」の「共生」の仕組みを実現することにより、移動の課題を解決し持続可能な社会「自律社会」の実現を目指します。

住民同士の送迎利用方法 (利用者編)

- ①アプリを起動し、乗換案内で目的地を入力
- ②候補経路が複数表示されるので、お好みを選択し、ガイドに沿って出発



高野地域を舞台に、
日本初の実証実験を
実施！！

